

2022 年度目標達成状況報告書（デザイン研究科）

*自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S:十分満たしている、A:満たしている、B:概ね満たしている、C:満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	学生のオープンで積極的な研究活動等を支援するための基盤づくり 1.研究支援体制の構築（複数教員による研究指導の効果的な運営）	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	A
No.	評価基準		
2	年度目標	学生のオープンで積極的な研究活動等を支援するための基盤づくり 2.専攻内での研究活動の連携と共有の機会づくり	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	A
<p>【年度目標達成状況総括】 完成年度からの2年目（計4年目）を終えて、当該年度は都度見直していった現状に合わせた研究科としての一定の水準になったと考える。また修了研究の成果物のどれも独自性があり、研究科としてのデザイン研究らしさがでたものになったと評価している。しかし、問題としては研究の評価基準が曖昧であったために優秀賞の選考に混乱が生じたことや研究内容の評価において主担当の評価を基準にしたことにより客観性が保たれていないことなどが挙げられる。デザイン研究科における望ましい研究活動や研究評価のあり方については次年度も継続課題となる。</p>			

【2022 年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）

年度目標2件は概ね達成されており、自己点検・評価は適正である。改善の余地のある項目については引き続き検討をお願いしたい。